

かけがえのない出会いから気づくことができた
「思いやりの心、助け合いの大切さ」

去る12月16日に「第41回神奈川県福祉作文コンクール」(共催:県共同募金会、後援:県、市町村教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、テレビ神奈川、日揮社会福祉財団)の表彰式を開催しました。

今回は県内の小・中学校合わせて275校から9621編の応募があり、地区審査から県一次審査、県最終審査会で選考され、最優秀賞16編、優秀賞20編、準優秀賞20編、合計56編が表彰されました。

審査委員長でNHK横浜放送局放送部長の北川薫さんから「作品の一つひとつにこれからの福祉について考えるヒントがありました。子どもたちだけでなく、大人の方々にもぜひ読んでいただきたいと思えます」と講評がありました。

「おっちゃん」と私」で県知事賞を受賞した逗子市立久木中学校2年の木戸沙奈さんは、作



おっちゃんとの出来事を語る木戸さん

品に登場する目の不自由な「おっちゃん」と関わっていく中で、大人になると日々の忙しさに「心の視力」が落ちてしまい、助けが必要な人と出会って通る過ぎてしまう人が多いことに気付いたそうです。

「誰かが助けてくれるから自分はいいや」と、自分に都合の良いことには壁を作っている気がします。知らない人でも、同じ地域で住んでいる人同士で助け合うことの大切さを、読んだ人に感じてもらいたいです」と語ります。

現在は、学校行事の運営などを担う文化委員の活動にも積極的に取り組む木戸さん。「これからもいろいろなことに挑戦し、努力を貯金していきたい」と、いきいきとした表情で意気込みを語ってくれました。



表彰式では受賞者代表として作文を朗読

（地域福祉推進担当）
本会ホームページにて本作品を含む最優秀賞16編を掲載しています

「おっちゃん」と私」
木戸沙奈さん(逗子市立久木中学校2年)

私はおっちゃんに出会って思ったことがあります。それは周りの大人はおっちゃんのことが見えていないのほぼ100%素通りしているということなんです。大人が助けられている暇がないのも理解できません。関わらなくて済むことにわざわざ関わらないのが普通であり、スマートな生き方とされているのかもしれない。でもそうやってずっと見えていても見えないふりをして続けたら、本当に見えなくなってしまうのでは、と私は思うのです。大人になると、心の視力が落ちるのです。

私は声を掛けるちよつとの勇気で人一人と知り合うことができました。出会いは人生の宝だと私は思っています。私はほんの少しだけ、おっちゃんの役に立てたかもしれないかもしれません。でもそれ以上におっちゃんは今まで私が考えてもみなかったことや知らなかったことを、たくさん教えてくれました。今は何事にもまず挑戦し、努力をし、いろいろな見方をもった人になりたいと思っています。そしてこれからも心の目をしっかり開いて生きていきたいです。(本文一部抜粋)

借金・離婚・相続・労働問題・犯罪被害...

日本司法支援センター **法テラス**

法的トラブルは、適切な機関や専門家に相談するのが解決への近道。まずはお気軽に法テラスへお電話ください。内容に応じて、ご利用いただける法律制度や相談窓口をご案内します。

法テラス・サポートダイヤル
0570-078374
夜間・土曜日もどうぞ

犯罪被害者支援ダイヤル 0570-079714

法テラス神奈川 ☎050-3383-5360 〒231-0023 横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル10階	法テラス川崎 ☎050-3383-5366 〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-1 パシフィックマークス川崎ビル10階	法テラス小田原 ☎050-3383-5370 〒250-0012 小田原市本町1-4-7 朝日生命小田原ビル5階
---	---	---

受付時間【共通】 平日9:00~17:00

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています